

百日咳流行に伴うワクチン接種に関するお願い

2025 年 5 月 21 日

予防接種推進専門協議会

現在、全国的に百日咳の流行が拡大しており、乳児を中心に死亡例を含む重症例が報告されています。更に薬剤耐性の問題もあり、有効な治療手段に限られる中、各学会から、百日咳を含むワクチンの接種を改めて推奨する提言がなされています^{1,2,3}。

小児に対しては、定期接種である生後 2 か月からの 5 種混合ワクチン(DPT-IPV/Hib)に加え、就学前児への三種混合ワクチン(DPT)の追加接種や、11～12 歳児に対する二種混合ワクチン(DT)接種の代替としての DPT 任意接種が推奨されています。さらに、妊婦に対する DPT 接種は、移行抗体により生後 2 か月未満の乳児を百日咳から守る有効な手段として、紹介されています。

こうした状況を受け、DPT の接種希望者が急増し、2025 年 4 月以降の需要は平時の約 5 倍に達し、供給量を大幅に上回る状況となっています。製薬メーカーによる供給は、従来の需要に見合った水準を維持しているものの、急速な増産は困難であり、2025 年 5 月より限定出荷の措置が講じられています⁴。

このような DPT の供給が制限されている中では、重症化リスクの高い早期乳児への感染を防ぐための接種を最優先とし、次いで乳児と頻回に接触する感受性者への接種を優先する必要があります。

つきましては、当協議会として以下の対応を推奨いたします。

1. 定期接種対象である乳児に対して、生後 2 か月から遅滞なく 5 種混合ワクチンを確実に接種すること。
2. 妊婦が DPT 接種を希望する場合には、地域内での供給調整を図ること。
3. 就学前の幼児、学童、医療関係者等への DPT 追加接種については、新生児や早期乳児との接触頻度の高い者を優先対象とし、地域の供給状況を踏まえて段階的に実施を検討すること。

限られたワクチンを、最も守るべき対象に確実に届けるため、関係各位におかれましては、引

き続き柔軟かつ適切な対応をお願い申し上げます。

参考資料

1. 日本小児科学会 百日咳患者数の増加およびマクロライド耐性株の分離頻度増加について(2025 年 3 月 29 日)
https://www.jpeds.or.jp/uploads/files/20250402_hyakunitizeki1.pdf
2. 日本産科婦人科学会 乳児の百日咳予防を目的とした百日咳ワクチンの母子免疫と医療従事者への接種について(2025 年 4 月 25 日)
<https://www.jsog.or.jp/news/pdf/infection07.pdf>
3. 日本周産期・新生児医学会 百日咳の流行とマクロライド耐性株への注意喚起
(2025 年 5 月 9 日)
<https://www.jspnm.jp/uploads/files/memberinfo/hyaku202505.pdf>
4. 田辺三菱製薬株式会社 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチントリビ
ック限定出荷について (2025 年 5 月)
https://medical.mt-pharma.co.jp/di/file/info/ifn_5630_P20529.pdf